

▼俳句四季大賞

- 第1回 (平13) 吉野義子 「流水」
- 第2回 (平14) 岩淵喜代子 「螢袋に灯をともす」
- 第3回 (平15) 後藤比奈夫 「沙羅紅葉」
- 第4回 (平16) 山上樹実雄 「四時抄」
- 第5回 (平17) 矢島渚男 「延年」
- 第6回 (平18) 小原啄葉 「永日」
- 第7回 (平19) 友岡子郷 「耶々」
- 第8回 (平20) 文挾夫佐恵 「雲の賦」
- 第9回 (平21) 今井千鶴子 「青愛鷹」
- 第10回 (平22) 綾部仁喜 「過ぎゆく」
- 第11回 (平24) 神蔵 器 「沈黙」
- 第12回 (平25) 照井 翠 「水輪」
- 第13回 (平26) 柿本多映 「土の唄」
- 第14回 (平27) 茨木和生 「龍宮」
- 第15回 (平28) 渡辺誠一郎 「飯生」
- 第16回 (平29) 石牟礼道子 「菓喰」
- 第17回 (平30) 西村和子 「地祇（ちぎ）」
- 第18回 (令元) 有馬朗人 「椅子ひとつ」
- 宇多喜代子 「十年」
- 宇多喜代子 「黙示」
- 宇多喜代子 「森へ」

▼俳句四季特別賞

- 第1回 (平24) 三田きえ子 「藹藹」
- 第2回 (平25) 前田吐実男 「鎌倉是空」
- 第3回 (平27) 大牧 広 「正眼」
- 第4回 (平29) 山田貴世 「喜神（きしん）」
- 第5回 (平30) 秋尾 敏 「俳句の底力」
- 第6回 (令元) 大久保白村 「花の暦は日々新た」
(忘日俳句篇・花の俳句篇)

▼俳句四季新人賞

- 第1回 (平25) 内山かおる 「冬の虫」
- 第2回 (平26) 鶴岡加苗 「ものいふ道具」
- 第3回 (平27) 宇志やまと 「指」
- 第4回 (平28) 斎藤真里子 「絵本開く」
- 第5回 (平29) 涼野海音 「明日は雪」
- 第6回 (平30) 小山玄黙 「天へ発つ（てんへたつ）」
- 板倉ケンタ 「膝に一花（ひざにいっか）」
- 吉田篤子 「胸もと」
- 「鏡の中」

▼俳句四季新人奨励賞

- 第1回 (平26) 安里琉太 「海光」
- 第2回 (平27) 根木夏実 「月光の味」
- 第3回 (平29) 鈴木加成太 「交信」

▼俳句四季全国大会大賞

- 第1回 (平13) 山之上友江 笑ひながら少女攫はるコスモス野
- 第2回 (平14) 大橋一青 垂直は禱りのすがた瀧凍る
- 第3回 (平15) 高田菲路 引く鶴の月山に来て高みけり
- 第4回 (平16) 出口裕興 煮凝りやふるさとの海荒るるころ
- 第5回 (平17) 矢野信幸 死に近き人を離れず冬の蠅
- 第6回 (平18) 日下野仁美 はるかより母の加はる手毬唄
- 第7回 (平19) 今井峰月 千枚の冬田となりて風ばかり
- 第8回 (平20) 倉富あきを 炉話や山より大き猪が出て
- 第9回 (平21) 手操直美 白鳥の眠りの中を雪降り
- 第10回 (平22) 伊藤柳香 歌垣の山に大きな春の月
- 第11回 (平23) 佐藤興中 雪搔いて五体たそがれまいとする
- 第12回 (平24) 黒木 豊 大阿蘇の風を捉へて凧揚がる
- 第13回 (平25) 奥原尋嘉 声高に風を読み合ふ野焼かな
- 第14回 (平26) 熊川暁子 一列はいのちの高さ鳥帰る
- 第15回 (平27) 安居雅寿 源流は雲の上なり代田掻く
- 第16回 (平28) 岩田芳雄 ぶつかって色のはみ出す喧嘩独楽
- 第17回 (平29) 能美昌二郎 寒鯉の動いて水の動かざる
- 第18回 (平30) 松家京子 無辺とは赤子のつかむ春の空
- 第19回 (令元) 大森 藍 みちのくの涙痕として滝凍る